



アグリカルチャーズプロ鈴蘭高原の畑



青果株式会社  
代表取締役社長  
藤井 雅人

**佐藤 専務**  
コープぎふでは、あらためて地産地消政策を整理しようとして検討しています。

**藤井 社長**  
安い農産物が無制限に流入すれば、日本の農業は大きなダメージを受けることになるかもしれませんが、この国の農業のレベルは世界ナンバーワンです。品質ではどの国にも負けていません。もちろん、安全性に関してもそうです。生産者は、「いいもの」を作り続け、私たち販売する側は、価格ではなく、その「価値」を訴え続けることが大切です。そういう思いを持った生産者はたくさんいますから、その方たちが作った野菜を売りたいと思っています。

**佐藤 専務**  
農業に関する不安といえば、TPPも参加交渉検討の最終盤を迎えています。コープぎふは20年以上前から、食糧の無制限な自由化に反対し、国内の農畜産業の育成をはかり、安心して利用できる食品を安定して確保していくことを目指してきました。今回のTPP交渉でも、これまでの取り組みを後退させてはならないと考えています。

**顔が見える安心と、地元の農業を守ることを大切にしたい**

**佐藤 専務**  
コープぎふでは、組合員の声を取引先を通じて

**藤井 社長**  
大役で緊張しっぱなしですが、ぎふ虹の会の会員の皆さんに支えられてやることができました。ぎふ虹の会はチームワーク抜群です！ 会員の皆が「組合員さんに喜んでいただきたい」という思いで一致しています。

**佐藤 専務**  
昨年から、ぎふ虹の会の代表を務めていただいています。一年を振り返っていかがでしたか？

**組合員さんの声が生産者のやりがいにつながっています**



# 組合員と生産者が思いを伝えあい 岐阜の農産物を生かす取り組みを

あけましておめでとございます。  
今年もよろしく願いいたします。

コープぎふでは2014年も地産地消について考え、岐阜の農産物を生かす取り組みを大切にしていきます。生協の理念や方針に賛同する生産者やメーカーでつくる「ぎふ虹の会」の代表カネ井青果株式会社・藤井雅人社長とコープぎふ・佐藤圭三専務理事に、現在の農業情勢を話題に、生協事業における農産物利用の課題、そして県内農作物の取扱いや利用を広げていく取り組みの可能性についてお話しいただきました。



生産者の方まで届けるよう努めています。あわせて、私たちも生産者の皆さんの思いを知ることが大事だと思っています。カネ井青果では、野菜・果物の仲卸業として地域に密着し、生産者が感じていることについての声も直接受け取っていらつやいます。日本の農業、生産者の現状についてどうお考えですか？

**藤井 社長**  
生産者には「お客さんの評価を聞きたい」という思いが必ずあります。それが作る喜び、やりがいにつながっていく。でも残念ながら、今の日本の流通システムでは、自分の作った野菜がどこで売られ、ど

**藤井 社長**  
共同購入と店舗で昨年度に利用された岐阜県産品は約25億円です。供給高比率は約1割で、数年前と比べても減少しています。組合員さんが地元のものを食べようと思っても実際は少ないことに気づかされました。

**藤井 社長**  
やはり地産地消の一番のメリットは生産者の顔が見えることの「安心」ではないでしょうか。生協が産直活動からスタートして今も大事にされていることはすばらしいことだと思います。私たちも、岐阜県の会社である以上、岐阜の青果を大切に皆さんの手元にお届けできるようにしたいと思っています。

**佐藤 専務**  
もともと、コープぎふは食料自給率の向上を課題として、そのためにできるだけ身近な地域の生産者とのつながりを強める努力をし、私たちが生きていくために大事な食料を、安定的に調達できる関係と事業構造づくりを進めてきました。それがひいては地元の生産者や農業を守ることにつながっていくという考え方です。それはこれからも大切にしていかなければなりません。

**組合員さんに自信を持ってお届けすることが私たちの使命です**

**藤井 社長**  
私も、2007年に「アグリカルチャーズプロ」という農事生産法人をつくり、高山の鈴蘭高原でほうれん草とキャベツを栽培しています。自分でやってみると、農業はいかに難しいかがわかります。最初の5年は失敗続きでしたが、昨年はコープぎふの店舗にも初めて納品しました。

う評価されているかが生産者には届きにくい状況にあります。



アグリカルチャーズプロの生産者

だから、コープぎふで、商品の利用者である組合員さんと直接お話ししたりして、接点を持てるのは何よりもうれしいことです。これも、コープを通じての「つながり」なのかもしれませんね。

**佐藤 専務**  
社長は、「本当にいいものは必ず売れる。そのために苦労してもいいから、絶対に自信があるものを出したい」といつも言われていますね。農産品ではありませんが、あまりに極端に商品価格を引き下げたプロモーションに対する「意見を組合員さんからいただくことも増えてきました。利用しやすい価格は確かに大事ですが、まずは商品の価値を知っていただくことが大切なことだと考えています。



コープぎふ  
佐藤 圭三専務理事

**藤井 社長**  
生協の組合員さんは、食に対する思いを人一倍強く持っている方たちです。この思いは生産者も同じで、当然安全・安心にも責任を持っています。意識の高い組合員さんに、リーダーになっていただける商品を作り、提供していくことが私たちの使命だと考えています。

**佐藤 専務**  
生協の思いに賛同していただけるカネ井青果さんが選んでいただく野菜なので、組合員さんにも自信を持ってお知らせできますし、安心して利用いただけると思っています。これからよろしくお願ひします。



12月8日岐阜地域地産地消のつどい